

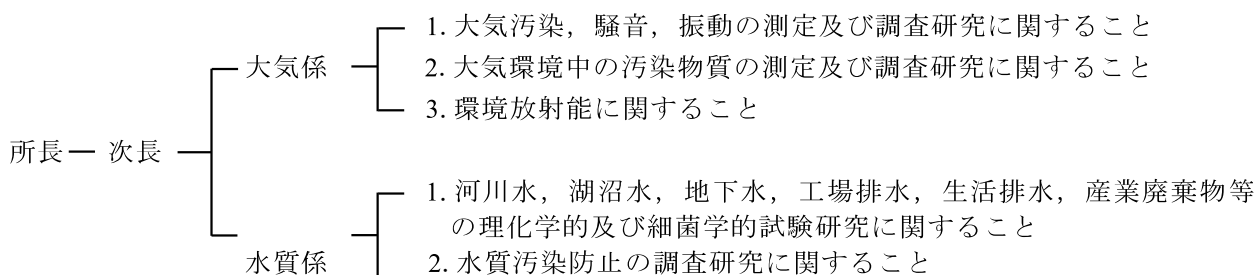
第1章 総説

1. 沿革

昭和23年 6月25日	奈良県告示第167号を以て、奈良市登大路町奈良県庁内に奈良県衛生研究所を設置
昭和28年 3月31日	奈良県条例第11号を以て、奈良市油阪町に庁舎を新築移転
昭和41年 3月30日	奈良市西木辻八軒町に奈良保健所との合同庁舎を新築移転
昭和46年 3月24日	奈良市大森町に独立庁舎を新築移転
昭和46年 5月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、総務課、環境公害課、予防衛生課の3課を設置
昭和48年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、食品化学課を新設
昭和50年 2月28日	前庁舎に接して約 1,276 m ² の庁舎を新築
昭和62年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、総務課、公害課、環境課、食品化学課、予防衛生課の5課制に編成替え
平成 2年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、総務課、大気課、水質課、食品生活課、予防衛生課に編成替え
平成12年 4月 1日	県感染症情報センターを所内に設置
平成14年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、奈良県保健環境研究センターと名称変更し総務課と試験研究グループ（大気環境担当、水環境担当、食品担当、ウイルス・細菌担当）に編成替え
平成18年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、総務課、精度管理担当、大気環境担当、水環境担当、食品担当、ウイルス・細菌担当に編成替え
平成22年 4月 1日	技術担当を置く
平成23年 4月 1日	技術担当を解く
平成25年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、大気環境担当及び水環境担当は奈良県景観・環境総合センターの試験研究部門として大気係、水質係に編成替え。奈良県保健環境研究センターは奈良県保健研究センターと名称変更し、総務課、精度管理担当、食品担当、細菌担当、ウイルス・疫学情報担当に編成替え。試験研究施設は桜井市栗殿に新築移転。

2. 組織（試験研究部門のみ）

（1）機構と事務分掌（令和6年4月1日現在）



(2) 職 員 構 成

(令和 6 年 4 月 1 日現在)

区 分	事務職員	技術職員		計
		獣医学	理工農学	
所 長			1	1
次 長	1			1
大 気 係			6	6
水 質 係		1	5	6
計	1	1	12	14

(3) 職 員 名 簿

(令和 6 年 4 月 1 日現在)

係 名	職 名	氏 名	係 名	職 名	氏 名
	所 長	城 山 二 郎			
	次 長	岡 部 泰 也			
大 気 係	統括主任研究員 総括研究員 主任研究員 主任研究員 主任研究員 主任主事	杉 本 恭 利 村 上 友 規 下 田 明 史 吉 田 実 希 久 保 友佳子 長 岡 孝 浩	水 質 係	統括主任研究員 主任研究員 主任研究員 主任研究員 主任主事 技師補 (再)	井 上 ゆみ子 北 岡 洋 平 辻 本 真 弓 岡 本 雄 二 平 山 可奈子 平 井 佐紀子

3. 施 設（試験研究施設のみ）

(1) 土 地

（令和 6 年 4 月 1 日現在）

地 名	地 目	面 積	現在の状況	所 有 者
桜井市栗殿 1000 番地	宅 地	8,741.86 m ²	宅 地	奈 良 県

(2) 建 物

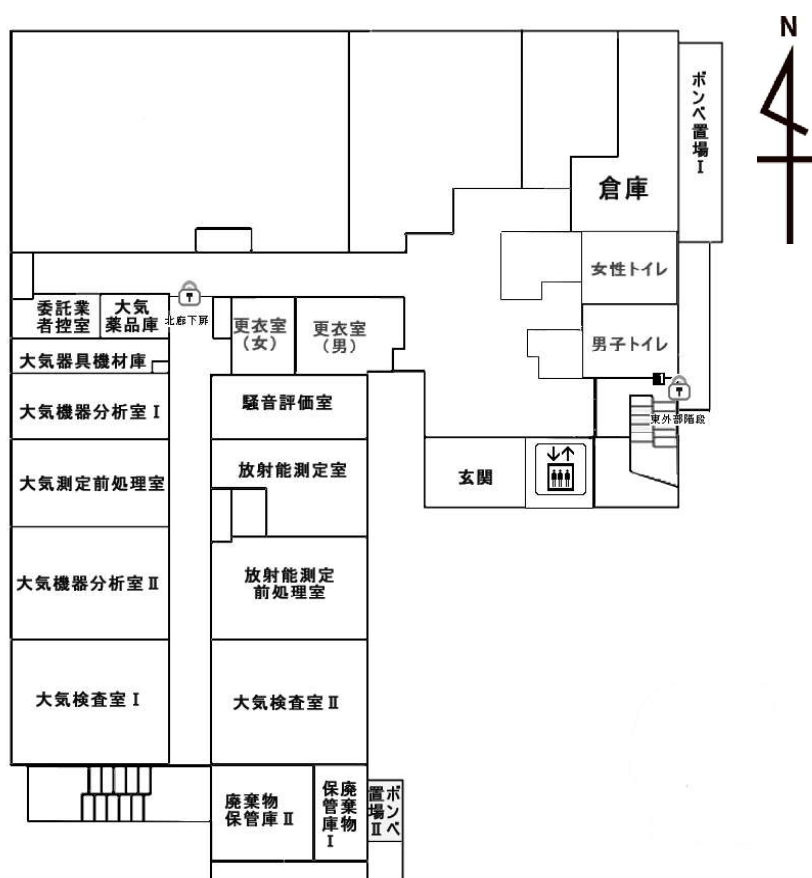
（令和 6 年 4 月 1 日現在）

施 設	面 積	使用開始年月日	建物経過年数	所 有 者
本館鉄筋コンクリート 4 階	3,264.17 m ²	平成 25 年 4 月 1 日	11 年	奈 良 県
（ 本 館 1 階 ）	(860.13)			
（ 本 館 2 階 ）	(786.77)			
（ 本 館 3 階 ）	(786.77)			
（ 本 館 4 階 ）	(786.77)			
（ 本 館 P1 階 ）	(43.73)			
倉 庫	7.00 m ²	平成 25 年 4 月 1 日	11 年	

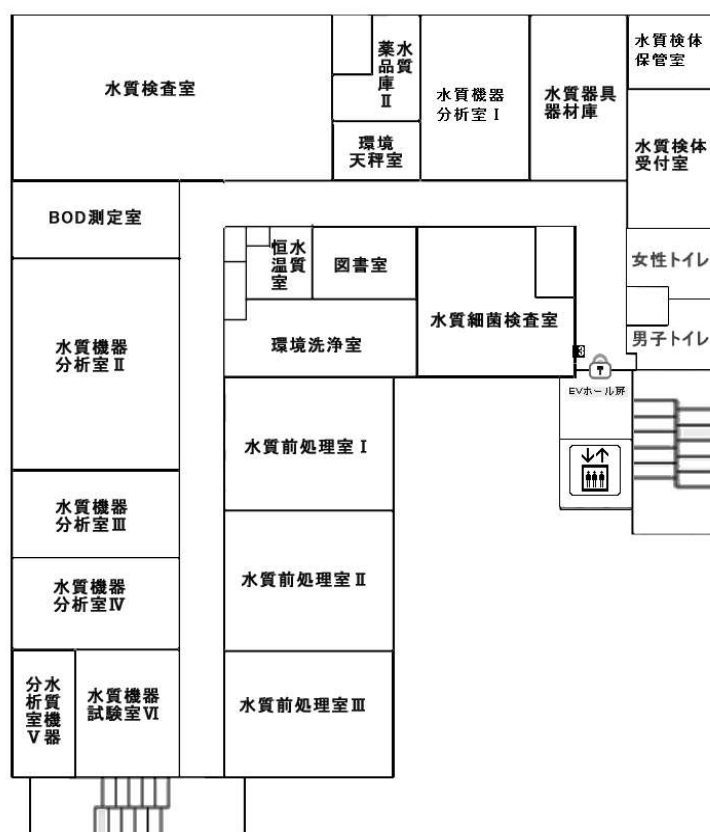
※大気係は 1 階西棟，水質係は 2 階全棟にて試験研究を実施．

(3) 奈良県景観・環境総合センター試験研究施設 配置図

(1 階)



(2 階)



4. 新規購入備品（単価 20 万円以上）

品 名	規 格	購入年月日
電子天秤	ザルトリウス・ジャパン（株）製 SECURA225D-1Sjp	R6.2.21
高速液体クロマトグラフ装置	（株）島津製作所製 送液ポンプ：LC-40D_XS オートサンプラ：SIL-40C 蛍光検出器：RF-20A カラムオーブン：CTO-40C フォトダイオードアレイ検出器：SPD-M40 解析システム：Labsolutions LCGC DB	R6.3. 8
純水製造装置	ヤマト科学（株）製 WL320A	R6.3.13
精密騒音計	リオン（株）製 NL-53EXK	R6.3.22

5. 予算及び決算（令和 5 年度）

検査手数料（証紙収納額）

（単位 円）

種 別	内 訳	予 算 額	証紙収納額
景観・環境総合センター手数料	大気試験 水質試験	143,000 3,050,000	0 2,477,700
合 計		3,193,000	2,477,700

歳 出

（単位 円）

款・項・目	予 算 額	支 出 額	残 額
（款）医療政策費	342,000	334,816	7,184
（項）保健予防費	342,000	334,816	7,184
（目）保健研究センター費	342,000	334,816	7,184
（款）水循環・森林・景観環境費	24,873,330	22,884,434	1,988,896
（項）水資源政策費	6,841,000	6,238,795	602,205
（目）水資源政策推進費	6,841,000	6,238,795	602,205
（項）環境管理費	18,032,330	16,645,639	1,386,691
（目）環境保全対策費	14,207,330	12,822,912	1,384,418
（目）廃棄物対策費	3,825,000	3,822,727	2,273
合 計	25,215,330	23,219,250	1,996,080

* 景観・環境総合センター大気係および水質係執行分のみ計上（人件費を含まず）

6. 企画情報関連

(1) 職員の出席した学会、研究会、講習会、研修会等

i) 大気係

年・月・日	内 容	開 催 地
R 5. 5.18	ジーエルサイエンスウェビナー「HPLC 基礎セミナー」	Web 開催
6. 9	Dionex IC 技術説明会 2023	大阪市
6.12	II 型共同研究「光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み」VOC・PM _{2.5} 観測グループ会合	Web 開催
6.20	II 型共同研究「光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み」リーダー会合	Web 開催
6.13～16	環境放射能分析研修（環境放射能分析及び測定）	千葉県
8.25	II 型共同研究「R」勉強会	Web 開催
9.13～15	第 64 回大気環境学会	つくば市
10. 4	ジーエルサイエンスウェビナー「GC の注入のしくみを理解する！ 1 から学ぶ GC 注入法」 ジーエルサイエンスウェビナー「【HPLC】 ODS カラム選択のポイント」	Web 開催
11.16～17	第 50 回環境保全・公害防止研究発表会	鳥取県
12. 8	II 型共同研究「光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み」リーダー会合 第 1 回 Ox 生成メカニズム勉強会	東京都
R 6. 1.26	令和 5 年度道路交通騒音・振動担当者説明会	Web 開催
1.26～2. 5	第 38 回全国環境研協議会東海・近畿・北陸支部研究会	堺市
2. 9	令和 5 年度大気分析研修	埼玉県
2.28～29	第 2 回 Ox 生成メカニズム勉強会 II 型共同研究「光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み」VOC・PM _{2.5} 観測グループ会合	Web 開催
2.29	第 3 回 Ox 生成メカニズム勉強会	つくば市
3. 1	令和 5 年度全国環境研協議会企画部騒音振動担当者会議	Web 開催
3. 8	高圧ガス消費者対象保安講習会	奈良県
3.15	令和 5 年度環境放射能水準調査に係る技術検討会	Web 開催
3.19	環境大気モニタリング分科会 第 54 回研究会 IIAE 大気環境総合センター 令和 5 年特別セミナー『VOCs、BVOCs 等のフィールド分析を通して見えてくる環境大気の実態』	Web 開催

ii) 水質係

年・月・日	内 容	開 催 地
R 5. 4.27	Ⅱ型共同研究「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」新年度会合	Web 開催
6.19	令和 5 年度環境測定分析統一精度管理調査 東海・近畿・北陸ブロック会議	Web 開催
6.20	Ⅱ型共同研究「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」サブ 1・2 定例会合	Web 開催
6.21	第 47 回 環境研究合同発表会（主催：神奈川県市環境研究機関協議会）	Web 開催
8. 9	Ⅱ型共同研究「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」サブ 3 定例会合	Web 開催
9. 4～15	令和 5 年度特定分析研修Ⅱ LC/MS/MS コース	所沢市
9. 7	奈良県産業振興総合センター 令和 5 年度研究発表会	奈良市
10.13	Ⅱ型共同研究「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」サブ 1・2 定例会合	Web 開催
10.23	「廃棄物・土壌分野における PFAS 問題の動向と最新の知見」セミナー	Web 開催
11.16～17	第 50 回環境保全・公害防止研究発表会	鳥取市
12.19～20	令和 5 年度Ⅱ型共同研究「多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用に関する研究」第 2 回 WS 打合せ	仙台市
12.26	Ⅱ型共同研究「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」サブ 3 定例会合	Web 開催
R 6. 1.16～17	Ⅱ型共同研究「災害時等における化学物質の網羅的簡易迅速測定法を活用した緊急調査プロトコルの開発」及び「公共用水域における有機-無機化学物質まで拡張した生態リスク評価に向けた研究」全体会合	つくば市
1.25～26	第 38 回全国環境研協議会東海・近畿・北陸支部研究会	堺市
1.29～30	令和 5 年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー	東京都
2.20～21	Ⅱ型共同研究「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」最終報告会	つくば市
3. 6～8	第 58 回日本水環境学会年会	福岡市

(2) 当センター職員を講師とする講演会、技術・研修指導

年・月・日	内 容	対 象 者	担 当
R 5. 8. 7～11	令和 5 年度奈良県庁インターンシップ（技術職）	奈良県内外の大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の学生 2 名	大気担当 水質担当
R 5.10. 3～ 6	令和 5 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習	奈良県立医科大学医学部 4 年生 5 名	水質担当

(3) 国立環境研究所・地方環境研究所との共同研究

地方公共団体環境研究機関等と国立環境研究所とのⅡ型共同研究

「公共用水域における有機-無機化学物質まで拡張した生態リスク評価に向けた研究」

水質係 浦西洋輔

「河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究」

水質係 平山可奈子 浦西洋輔

「災害時等における化学物質の網羅的簡易迅速測定法を活用した緊急調査プロトコルの開発」

水質係 北岡洋平 浦西洋輔

「多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用に関する研究」

水質係 平井佐紀子

「光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み」

大気係 村上友規 上林政貴 久保友佳子 志村優介

(4) 景観・環境総合センター研究発表会 ※詳細は本誌第3章第5節(2)参照

i) 令和5年6月23日

「微小粒子状物質(PM_{2.5})中の有機マーカーの季節別・時間別挙動について」

大気係 村上友規

「大和川水系岡崎川の水質改善に関する検討について」

水質係 北岡洋平

ii) 令和6年2月22日

「奈良県における大気粉じん中の多元素測定と解析」

大気係 志村優介

「奈良県における異常水質の原因特定事例について」

水質係 浦西洋輔

(5) 外部評価制度

i) 外部評価制度の導入

調査研究業務に客観的かつ公正な評価を加え、調査研究の充実とその成果の普及を図ることを目的に、平成19年度から保健環境研究センターとして外部評価制度を導入している。

平成25年度からは、保健環境研究センター大気環境担当・水環境担当が、景観・環境総合センター大気係・水質係へと組織変更され、保健環境研究センターは保健研究センターと名称変更されたが、外部評価制度は両者合同で行っている。

外部評価委員

(令和5年4月1日現在)

	氏 名	所 属
委員長	多賀 淳	近畿大学
委 員	須崎 康恵	奈良県立医科大学
委 員	山田 誠	龍谷大学
委 員	川崎 清史	同支社女子大学
委 員	片野 泉	奈良女子大学

ii) 令和5年度評価対象となった調査研究（当センター分のみ抜粋）

担 当	主任研究者	課 題 名	共同研究者
大気係	志村 優介	奈良県における大気粉じん中の多元素測定と解析	上林 政貴 村上 友規 吉田 実希 久保 友佳子
水質係	平山 可奈子	大和川流域におけるマイクロプラスチックの環境実態調査	浦西 洋輔

iii) 外部委員による総合評価

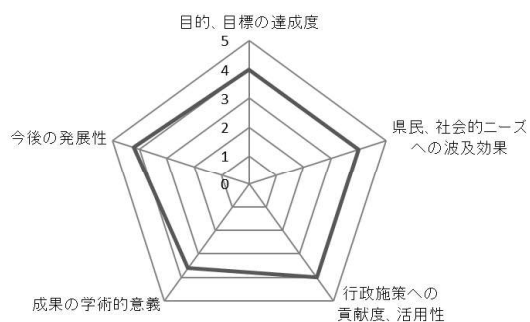
令和5年度の調査研究について、全体を通じ次のように評価された。

- ・忙しい業務の中でも、繰り返し性の高い、精度の高い研究をしていると感じた。
- ・社会のニーズに合った研究がされていたと感じた。
- ・価値の高い、面白いデータがたくさん見受けられた。ぜひ研究を継続してほしい。
- ・行政としてデータの蓄積だけでなく、新規性のある研究として発展させていくことを意識して研究を進めてほしい。
- ・調査研究の内容を、多くの県民に知ってもらう機会を作してほしい。

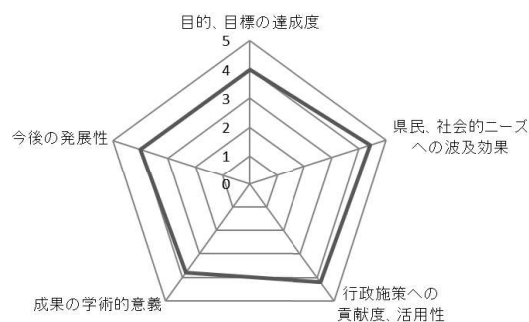
iv) 外部委員による個別評価

外部委員による評価は、①目的・目標の達成度、②県民・社会的ニーズへの波及効果、③行政施策への貢献度、活用性、④成果の学術的意義、⑤今後の発展性の観点から行われる。

それぞれについて、5段階評価で行い各委員の平均で表した。



奈良県における大気粉じん中の多元素測定と解析



大和川流域における
マイクロプラスチックの環境実態調査

